

2008 年度

<p>科目名</p> <p style="text-align: center;">英米文学特講 I</p>	<p>対象学科・学年 専攻科教福1回生</p>	<p>担当者</p> <p style="text-align: center;">竹村 義和</p>
<p>授業テーマ 小説の技巧</p>		
<p>授業の概要と目標 David Lodge の <i>The Art of Fiction</i> を読みながら、英米の小説を味読するための基本的な技巧について勉強する。</p>		
<p>評価方法 出席50、レポート50</p>		
<p>テキスト <i>The Art of Fiction</i> 詳しくは最初の授業時に指示します。</p>	<p>著者 David Lodge</p>	<p>出版社</p>
<p>参考書</p>	<p>著者</p>	<p>出版社</p>
<p>授業スケジュール・内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ティーンエイジ・スカース (J.D. ・サリンジャー)</li> <li>2 書簡体小説 (マイケル・フレイン)</li> <li>3 名前 (デイヴィッド・ロッジポール・オースター)</li> <li>4 場の感覚 (マーティン・エイミス)</li> <li>5 リスト (F・スコット・フィッツゲラルド)</li> <li>6 人物紹介 (クリストファー・イシャウッド)</li> <li>7 驚き(ウィリアム・メイクピース・サッカレイ)</li> <li>8 時間の移動 (ミュリエル・スパーク)</li> <li>9 テキストの中の読者 (ロレンス・スターン)</li> <li>10 天気 (ジェイン・オースティン/チャールズ・ディケンズ)</li> <li>11 凝った文章 (ウラジーミル・ナボコフ)</li> <li>12 間テキスト(ジョゼフ・コンラッド)</li> <li>13 実験小説 (ヘンリー・グリーン)</li> <li>14 コミック・ノベル (キングズリー・エイミス)</li> <li>15 マジック・リアリズム (ミラン・クンデラ)</li> <li>16 表層にとどまる (マルカム・ブラッドベリ)</li> <li>17 複数の声で語る (フェイ・ウェルドン)</li> <li>18 過去の感覚 (ジョン・ファウルズ)</li> <li>19 未来を想像する (ジョージ・オーウェル)</li> <li>20 エピファニー (ジョン・アップダイク)</li> <li>21 偶然(ヘンリージェイムズ)</li> <li>22 怪奇：エドガー・アラン・ポオ</li> <li>23 物語構造：レナード・マイケル図</li> <li>24 アポリア：サミュエル・ベケット</li> <li>25 シュルレアリスム (リオノーラ・キャリントン)</li> <li>26 アイロニー (アーノルド・ベネット)</li> <li>27 動機づけ (ジョージ・エイリオット)</li> <li>28 言外の意味 (ウィリアム・クーパー)</li> <li>29 題名 (ジョージ・ギッシング)</li> <li>30 思想 (アントニー・バージェス)</li> </ol>		